

マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子が躍った。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子様も祝福されています。」（ルカ福音書1：41～42）

主は御腕をもって力を振るい / 思い上がる者を追い散らし / 権力ある者をその座から引き降ろし / 低い者を高く上げ / 飢えた人くを良い物で満たし / 富める者を何も持たずに追い払い / 慈しみを忘れず / その僕イスラエルを助けてくださいました。（ルカ福音書1：51～54）

天使ガブリエルから受胎告知を受けたマリアは、親類である、エルサレム神殿の祭司ザカリアの妻エリサベトを訪ねた。マリアの挨拶を聞いた時、エリサベトの胎に宿る6ヶ月目の洗礼者ヨハネが躍った。エリサベトは聖霊に満たされて、声高く、「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子様も祝福されています。私の主のお母様が、私のところに来てくださるとは、何ということでしょう」と言った。あなたの挨拶を耳にした時、胎内の子が喜び踊りましたと伝え、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、何と幸いですでしょう」と、天使のみ告げを受け入れたマリアの信仰を称賛した。ガリラヤのナザレから100 kmほど離れたエルサレムまで、女性のマリアが一人旅をすることなど、当時の事情からしてあり得ない。女性は旅することが許されていなかった。エリサベト訪問は、ヨハネと主イエスは懐妊した時から深い関係で結ばれていること、そして、次の「マリアの賛歌」につなげるための記述である。マリアはエリサベトの祝福を受けて、「マリアの賛歌」を歌い、主イエスの誕生に用いられることを喜び、主イエスの生涯の意味を伝えている。

マリアは「私の魂は主を崇め / 私の霊は救い主である神を喜びたたえます。この卑しい仕え女に / 目を留めてくださったからです」と歌い始めた。信仰は神を崇めることであるが、それは同時に、自分の低さを告白することである。マリアは自分を仕え女と認識し、取るに足らない私に目を留められたことを喜んでいいる。力ある神が、私に神の子イエスを産む、大いなることをしてくださったから、世の人は私を幸いな者と言うでしょう。あなたの御名は聖であり、その慈しみは代々限りなく、主を畏れる者に及ぶ。マリアは、神の子を産む光栄ある務めを果たす者とされたことを、恐れと喜びをもって受け入れ、そのことによって、神の聖と慈しみが代々に渡って示されると高らかに歌っている。

そして、主イエスの誕生の意味を歌っている。「主は御腕をもって力を振るい / 思い上がる者を追い散らし / 権力ある者をその座から引き降ろし / 低い者を高く上げ / 飢えた人を良い物で満たし / 富める者を何も持たずに追い払い / 慈しみを忘れず / その僕イスラエルを助けてくださいました。」この言葉は、著者ルカの主イエスに対する信仰告白で、その内実は、人間の作る価値を逆さまに、逆転させるという主張である。思い上がる者、権力ある者を低きに降ろし、低められている者を高きに上げる。貧しく飢えた者を良い物を食べさせて満たし、裕福な者を空手で追い払う。神は慈しみを忘れることなく、神の民イスラエルを助けてくださる。この神の慈しみは先祖に約束されたことで、アブラハムとその子孫に対して永遠に与えられる。ルカ福音書は主イエスの生涯、十字架と復活によって、弱く貧しい者が神の憐れみを受け、その人らしく、自分の足で歩く豊かな人生に変えられる逆説的福音が起こったことを描き出している。